

フードロス削減に関する実践報告

武富和美¹ , 宮地玲奈²

(西九州大学短期大学部 地域生活支援学科¹ ,
公益財団法人日本青年会議所九州地区佐賀ブロック協議会²)

(令和5年12月25日受理)

Practical Report on Reducing Food Loss

Kazumi TAKEDOMI¹ , Reina MIYACHI²

(Department of Local Life Support Sciences, Nishikyushu University Junior College¹,
Junior Chamber International Japan, Saga Bloc Council²)

(Accepted December 25 , 2023)

Abstract

At the end of 2021, we received a request from the Visionary City Commission of the Junior Chamber International Japan Saga Block Council to collaborate on activities related to the promotion of SDGs. The main theme of the Saga Block Council in 2022 was "Reduction of Food Loss ". We participated in the conference and presented the results of our collaborative efforts. This paper reports on the details of these efforts.

Key words: フードロス削減: Reduction of food loss
SDGs: Sustainable Development Goals
循環型社会: Recycling based society
実践: Practice

1.はじめに

Sustainable Development Goals(以下、SDGsとする)とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標である。この目標は17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓って、世界各国で様々な活動が展開されている。本学は、2021年4月にSDGs宣言¹⁾をし、建学の精神に基づいて、SDGsの「世界を変えるための17の目標達成を目指すこと」、および「目標とターゲットがすべての国、すべての人々、及びすべての部分で満たされるよう、誰一人取り残さないこと」を新たな教育的視点として取り入れ、SDGsに寄与する人材の育成に取り組み始めた。2021年度カリキュラムから共通教育科目の教養科目としてSDGs入門とSDGsの実践の2科目を導入し、全学必修としてSDGsの基礎を実践的に学ぶ機会が設けられている。

学生達がSDGs教育を受け始めてちょうど1年が経とうとしていた時、公益社団法人日本青年会議所九州地区佐賀ブロック協議会(以下、佐賀ブロック協議会とする)より、SDGsを推進し広く皆様に周知する活動を協働で取り組んでほしいとの活動依頼を受けた。2022年度に佐賀ブロック協議会が主催する佐賀ブロック大会のメインテーマは「フードロス削減」であり、筆者の担当する「地域生活支援演習(卒業研究)」においてもフードロスをテーマとした活動を展開しようと検討しているところであったため、その依頼を受諾し協働で取り組むこととなった。

本稿では、その取り組みについて報告する。

2.活動プロセス

本取り組みの活動プロセスを表1に示す。まずは学生達が本学で学んだSDGsの授業の振り返りも含めてSDGsやフードロスの現状について学ぶことから始め、フードロ

ス削減のためのボランティア活動への参加や行政との意見交換会や勉強会を行った。また、SDGsを通じた循環型社会への取り組みをされている企業を訪問見学し、その後、企業からいただいた堆肥を活用して循環型社会の実現に向けた取り組みにも挑戦した。本取り組みの成果は、令和4年7月3日に佐賀県鹿島市で開催された佐賀ブロック大会で発表した。

3.活動の実際

3-1. SDGsとフードロスの現状について学ぶ

本取り組みを始めるにあたりSDGsとフードロス、フードロス削減について知ることから始めた。佐賀ブロック協議会ビジョナリー委員会委員長を講師にお招きし、まずSDGsの17の目標について学び、身近なSDGsを考えるため17の目標のうち実際に実践しているもの、これから実践したいことについて意見交換を行った(図1)。実践していることで一番多く出てきた意見はエコバック持参運動であった。実践したいことについての意見は出なかった。

フードロスについては、本来食べられるのに捨てられてしまう食品が年間570万トンに及び、国民1人当たり1日約お茶碗1杯分が捨てられていること²⁾を再認識した。フードロス削減については、日本では食品リサイクル法³⁾や食品ロス削減推進法⁴⁾を制定し取り組みの推進を行っ



図1 意見交換会の様子

表1 活動プロセス

期間	活動内容	場所(講師)
令和4年4月 8日	SDGsとフードロスの現状について学ぶ	西九州大学短期大学部 (佐賀ブロック協議会ビジョナリー委員会)
令和4年4月14日	フードバンクについて知る	フードバンクさが (特定非営利活動法人フードバンクさが副理事長)
令和4年4月21日	フードバンクの仕事体験(仕分け作業)	フードバンクさが
令和4年5月 6日	循環型社会について学ぶ、コンポスト見学	キョーヨー活魚(有)呼び養殖場
	唐津市のフードロスの現状とフードロス削減のための取り組みについて知る	唐津市役所 (市民環境部環境課環境・リサイクル推進係)
令和4年5月13日	佐賀市のフードロスの現状とフードロス削減のための取り組みについて知る	西九州大学短期大学部 (佐賀市環境部循環型社会推進課3R推進係)
	野菜の種まきと苗植え、栽培開始	西九州大学短期大学部
令和4年6月17日	野菜の収穫 収穫した野菜を活用したレシピ考案・試作	西九州大学短期大学部
令和4年6月24日	本活動の成果発表に向けた準備、リハーサル	西九州大学短期大学部
令和4年7月 3日	佐賀ブロック大会でのパネルディスカッションと成果発表	鹿島市生涯学習センター エイブルホール

ていること、また、現在行われている取り組みの中にフードバンク活動の積極的な活用があることを知ることができた。

3-2. フードバンクについて知る

フードバンクとは、「食料銀行」を意味し、企業や家庭においてまだ食べられるのに様々な理由により廃棄されてしまう食品を集めて困窮者へ無償で提供する活動のことである。このフードバンク活動を知るために特定非営利活動法人フードバンクさがへ行き、副理事長より話をうかがった。日本では食べるものに困っているという声はあまり聞こえてこないが実際には困っている方が大勢いて適切なおところに迅速に届くようにと信念を持って活動されていることを知ることができた。この話を受けて、フードバンクさがの活動の実際を知るために仕分けのボランティア体験をすることにした。

3-3. フードバンクの仕事体験(仕分け作業)

フードバンクさがに集められた品物の仕分け作業のボランティア体験を行った。実際には食品以外のものも多く、大量の品物一つ一つの在庫管理をバーコードするため、その貼り付け作業に時間を要し重労働であることが分かった。また、寄付された品物がどう仕分けされて、どう受け渡されるのかを学ぶことができた(図2,3)。実際に体験することでスタッフの皆様の日頃のご苦勞を痛感すると同時にこうした取り組みのお陰で本来廃棄されるものが困っている人へ届けられることはとても良い取り組みであると実感することができた。



図2 フードバンクでの仕分け体験



図3 フードバンクでの仕分け体験

3-4. 循環型社会について学ぶ

SDGsを通じた循環型社会を考えるために、佐賀県唐津市鎮西町にあるキョーヨー活魚(有)呼子養殖場へ見学に行った。この企業では、ふぐの養殖中にでる死骸をぬかと

混ぜて堆肥化し、できた堆肥を地元のみかん農家などに肥料として活用してもらう循環型事業に取り組まれている。企業の方より「順調に飼育をしていても一定数の死骸(廃棄ゴミ)がでてしまう。それらをただ捨てるのではなく循環させて次につなげたいという思いでぬかと混ぜて堆肥として生まれ変わらせ植物の肥料として活用している」という話をうかがい、廃棄されるゴミをただ捨てるのではなく、違う形で生まれ変わらせれば何かの役に立ち循環型社会が実現できるということを学ぶことが出来た(図4,5)。

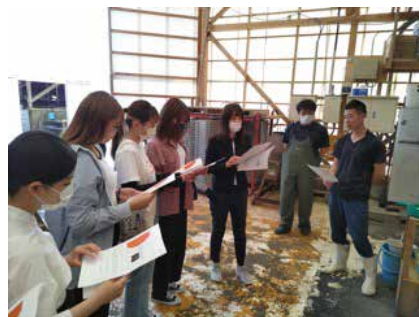


図4 循環型事業について学ぶ



図5 出来上がった堆肥

3-5. 唐津市のフードロスの現状とフードロス削減のための取り組みについて知る

唐津市役所市民環境部環境課環境・リサイクル推進係より唐津市のフードロス削減の取り組みについて話をうかがった(図6)。唐津市では、家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄り取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付するフードドライブ^{*1}活動を2022年度から開始されており、6月の環境月間に合わせて実施された際の話を知ることができた。また、市内のコンビニエンスストアとタイアップされ手前どり



図6 唐津市役所での意見交換会

運動の啓発にも努められていることを知ることができた。

3-6. 佐賀市のフードロスの現状とフードロス削減のための取り組みについて知る

佐賀市環境部循環型社会推進課3R²推進係より講師をお招きし、佐賀市のフードロスの現状と佐賀県下で行われているフードロス削減の取り組みについて話をうかがった。佐賀市では近年、未使用未開封のままで捨てられる手つかず食品が多く、佐賀市の家庭から発生した生ごみ調査結果では全体の2割を占め食べ残しよりも手つかず食品の方が多いということを知ることができた。また、県内では3010運動が開催されていて外食の始めの30分と終わりの10分は席について残さず食べようというもったいない運動があることも知ることができた。フードロスは最終的には焼却処理される。食品を焼却処理する際には二酸化炭素が排出され、それにより環境負荷や食料不足など社会全体に影響を及ぼすことを学ぶことができた(図7)。



図7 佐賀市の取り組みについて学ぶ

3-7. 野菜の種まきと苗植え、栽培

3-4の項で示した企業から分けていただいた堆肥を用いてプランターでの野菜栽培に挑戦し循環型社会の実現



図8 野菜の種まき



図9 野菜の苗植え

に向けて実践を行った。令和4年5月13日に、トマトとほうれん草と水菜については種をまき、きゅうりとバジルについては苗植えをして栽培を開始した(図8,9)。

3-8. 野菜の収穫、収穫した野菜を活用したレシピの考案と試作

令和4年6月17日に育てた野菜を収穫した(図10)。その後、収穫した野菜を活用したフードロス削減メニューを考案した(図11,12)。これにより、廃棄されるゴミも違う形で生まれ変わらせれば何かの役に立ち循環型社会が実現できるということを実感することができた。



図10 野菜の収穫



図11 フードロス削減メニューの考案(ブルスケッタ)



図12 フードロス削減メニューの考案(ピザ)

3-9. 成果発表に向けた準備

本取り組みの成果を令和4年7月3日に開催される佐賀ブロック大会で発表することにした。また、成果発表前のパネルディスカッションにも参加することにした。パネルディスカッションは「フードロス削減で愛があふれるこれからのビジョンを描くため、一番必要なことは何か」、「今回の取り組みを通して今後ぜひ皆様に実行してほしいと思うことは何か」、「漢字一文字でフードロス削減を表すと」の3つテーマが用意されていたため事前に意

見をまとめて準備を行った。

3-10. 佐賀ブロック大会でのパネルディスカッションと成果発表

当日は、開会までの間、フードバンクさがによるフードドライブの手伝いをした。その後、衆議院議員河野太郎氏、フードバンクさが理事長、唐津市や鹿島市、佐賀市の行政の皆様とパネルディスカッションに臨み、最後に成果発表を行った(図13, 14)。



図13 佐賀ブロック大会での成果発表とパネルディスカッションの様子



図14 パネルディスカッション後に河野太郎氏と

4. 学生による活動の振り返り

今回の取り組みを終えての学生達の意見と感想をまとめた。

(学生A) フードバンクのボランティアに参加し実際体験してみて、あんなに重たい大量の荷物を少ない人数で仕分け作業をされていてとても大変だということを知りました。もっと沢山のの方にフードバンクを知ってもらい、ボランティアに参加してくれる方が増えるといいなと思いました。

(学生B) フードバンクのボランティアで寄付された物資にバーコードをつける作業や仕分ける作業を経験し、またフードバンクの方々、少人数で寄付されるたびに作業をされているのですごく大変な作業を行われているなと思いました。私たちみたいな学生や大人の方でも気軽にボランティアに参加できると知ったので、フードバンクに少しでも興味ある方などが積極的に参加して貰えるようになればいいなと思いました。

(学生C) 今までフードロスやフードロス削減に興味があったものの具体的に何をすれば良いか分かりませんでした。今回の事業を通してたくさんの知識を身につける

ことができ、私たちにもフードバンクで仕分けのボランティアや使わない物の寄付、手前取りなどができることはたくさんあると気づいたのでこれから実践していきます。

(学生D) 5月に、廃棄ゴミを堆肥に変え、それを地元の農家さんに肥料として活用してもらう事業に取り組みされている企業に見学に行きました。その企業から堆肥を分けていただいて私たちも野菜を育て、その収穫を終えて、きゅうりとトマトは食べることは出来ませんでした。バジルとほうれん草を使って、バジルスソースとピザ、ブルスケッタを作りました。ほうれん草はいつも食べているものとは見た目は違いましたが、匂いや味はほうれん草そのもので、プランターでも簡単にできる事が分かりました。廃棄ゴミも堆肥にすればゴミではなくなり、新たな作物を作る材料となりフードロス削減につながる事が実感できました。

(学生E) 今回、ゴミを肥料にする取り組みを見学し、自分達でやれる事がこんなにあるのに知らない人が多いのが現状だと感じました。色々な人に認知して貰い、少しでも取り組む人が増えたら良いなと思いました。

学生達の意見や感想から、今回のフードロス削減のための取り組みを通して佐賀県下で様々な活動が行われていること、自分たちが行っていない活動がたくさんあることを知ることができたようであった。実際に体験をすることで、本学のSDGs教育で学んでいた内容とも結びつき、また、SDGsやフードロス削減についてより深く知り関心を持つきっかけとなったようであった。

5. まとめ

本取り組みでは、佐賀ブロック協議会の皆様とフードロス削減について共に学ぶ機会をいただいた。学生達は本学のSDGs教育を受けフードロスについて学んではいたもののその実際についてはまだ理解できていなかったように思う。本取り組みを通して、フードロスの現状、佐賀県下のフードロス削減の取り組みを知り、また、廃棄ゴミから作られた堆肥を活用して野菜を育てる体験により、フードロスされたものを堆肥にすれば新たな作物を作る材料となり自分達の手で循環型社会を実現できること、そしてそれがフードロス削減へとつながるということを理解できたのではないかと考えられた。

本取り組みは学生達にとって生きた教材となったと考えられる。次の世代を担う学生達が、この経験を生かしてフードロス削減のために「私たちが今できることは何か」を考え実践し社会に貢献してくれることを期待したい。

謝辞

公益社団法人日本青年会議所九州地区佐賀ブロック協議会の皆様をはじめ本取り組みにご協力いただいた皆様に深く感謝致します。

6.参考文献

- 1)西九州大学短期大学部:「西九州大学短期大学部SDGs宣言」,<https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/jctopics/detail/i/2069/>,(アクセス2022-4-8)
- 2)農林水産省:「日本の食品ロスの状況」,<<https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/attach/pdf/211130-5.pdf>>,(アクセス2022-4-8)
- 3)農林水産省:「食品リサイクル法」,<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_6.html>,(アクセス2022-4-8)
- 4)消費者庁:「食品ロスの削減の推進に関する法律」,<https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/promote/>,(アクセス2022-4-8)

7.注釈

*1 フードドライブ

家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらを取りまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動のことである。

*2 3R

リデュース(Reduce,ごみの発生抑制)、リユース(Reuse,再使用)、リサイクル(Recycle,再生利用)の3つの取り組みの頭文字Rをとった言葉である。
(<https://www.city.saga.lg.jp/main/63927.htm>佐賀市HPアクセス2022-5-13)